



地球温暖化防止

マテリアルフロー

建設事業では、事業活動に伴いエネルギーや資材が投入される一方、CO₂や建設副産物等が排出されます。地球環境の保護・保全のためには、これらの投入量、排出量を把握することが重要となります。当社は、循環型社会の構築のため、環境マネジメントシステムを適正に運用することで、排出量の削減やリサイクル率の向上を目指しています。

2019年度は、建築事業における大規模解体工事の減

少に伴い、再資源化率の高いコンクリートガラの排出量が大きく削減されましたが、汚泥の再資源化率が改善されました。このことにより、建設廃棄物全体のリサイクル率も前年度から2.3%向上しています。

なお、INPUTのうち、砕石の投入量増加については護岸工事の順調な進捗によるものと考えております。同様に土砂の投入量の増加についても護岸工事等における地盤改良工事に伴う投入量の増加が要因と考えております。

事業活動



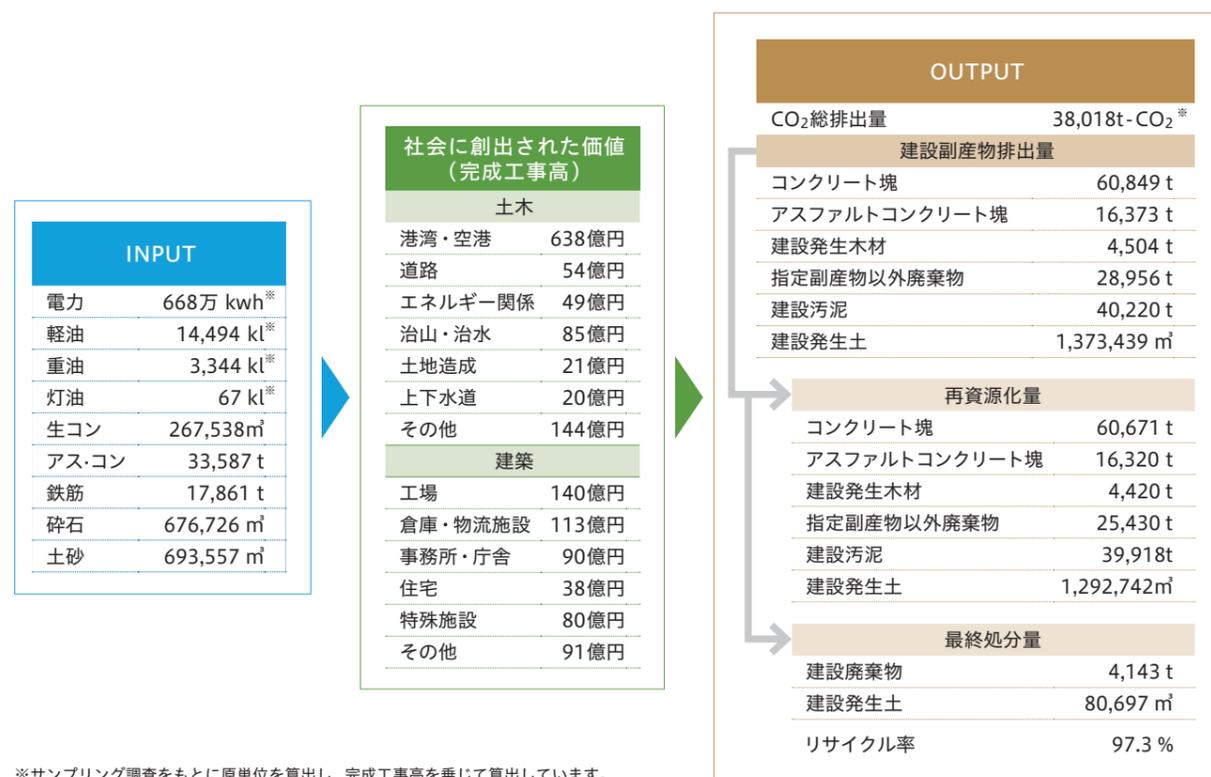
13号地新客船ふ頭岸壁建設工事



南本牧埋立土砂海上運搬及び掘土工事



エスフーズ(株)船橋工場

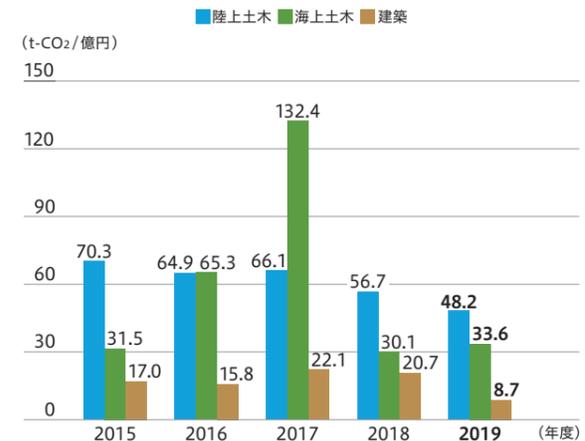


CO₂排出量削減

当社は、(一社)日本建設業連合会が策定した環境に対する取り組み指針「建設業の環境自主行動計画」で掲げる「建設施工段階におけるCO₂排出量を(1990年度を基準として)2020年度までに20%削減する」という目標のもと、2005年度より排出量の計測を行うとともにCO₂排出削減活動を推進しています。

2019年度は、30現場をサンプリングし排出量調査を実施しました。

完成工事高1億円当たりのCO₂排出量の推移



土木

2019年度の完成工事高1億円当たりの排出量は、陸上土木工事で48.2 t-CO₂/億円となり、前年度と比較して8.5 t-CO₂/億円の減少となりました。

また、海上土木工事における作業船からの排出量は、33.6 t-CO₂/億円となり、前年度より3.5 t-CO₂/億円の微増となりました。電力使用による排出量は増加しましたが、軽油使用に伴う排出量が減少し、土木全体ではやや減少傾向になったと考えます。

建築

2019年度の完成工事高1億円当たりの排出量は、8.7 t-CO₂/億円となり、前年度と比較して12.0 t-CO₂/億円の大幅な減少となりました。大型物流施設等における重機の効率的な利用や低燃費型機械の使用による燃料消費量の削減により、軽油使用に伴うCO₂排出量が大きく減少したのと考えています。

CO₂排出量削減率(対1990年度比)



CO₂排出量削減の取り組み

CO₂排出量の削減にあたっては、1990年度における排出量の原単位にあたる、陸上土木工事で92.0 t-CO₂/億円、建築工事で24.0 t-CO₂/億円を基準として目標値を設定し、建設機械等の点検整備の徹底、省エネ運転、アイドリングストップの励行、ハイブリッド型の重機の採用等による削減活動を推進しています。

2019年度の1990年度比削減率は陸上土木工事47.6%、建築工事63.8%となり、土木工事、建築工事ともに改善し目標達成となりました。

当社では、この状態をさらに向上させるため今後も建設機械・船舶等の点検整備の徹底による燃料効率の向上ならびに省エネ運転、アイドリングストップの励行、ハイブリッド型の重機の採用に加え、建設副産物の再利用等による搬出入車両の削減等を実施し、日建連の提唱する2020年度における目標達成に向けて積極的なCO₂削減活動を推進してまいります。